

岐阜県の森林・林業

# 森もり林のたより

森と木に関わるスペシャリストを  
目指して学んでいます。

No.761  
2017 February

2

FREE

ご自由にお持ちください。



開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
2月7日(火)~ 2月22日(水)~	平成29年度 森林文化アカデミー 入学試験(第4回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森と木のエンジニア科(一般入試3) 3月4日(土)</li> <li>●森と木のクリエイター科(一般入試4) 3月5日(日)</li> <li>●エンジニア科(一般入試3)、クリエイター科(一般入試4)については第3回の入試の結果、定員数を満たしている場合は、実施しません。学科ごとの入試の有無については、1月27日(金)以降にホームページ(<a href="http://www.forest.ac.jp/">http://www.forest.ac.jp/</a>)で公表します。</li> <li>●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(<a href="http://www.forest.ac.jp/">http://www.forest.ac.jp/</a>)からダウンロードできます。</li> </ul>	森林文化アカデミー (美濃市曾代88)  森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525
2月21日(火)	課題研究公表会	アカデミーでの2年間の学びの総仕上げとして、各自で設定した課題について研究発表を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>●参加費無料</li> <li>●当日参加可能</li> </ul>	森林文化アカデミー 森の情報センター (美濃市曾代88)  森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525
2月26日(日)	第5回 緑豊かな 清流の国ぎふづくり 県民フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した事例を県民の皆さんに紹介します。</li> <li>●時間: 13:30~16:00</li> <li>●参加料: 無料</li> <li>●事前申込: 要</li> </ul>	岐阜県水産会館大会議室 (岐阜市数田南1丁目11番12号)  岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-8472 FAX 058-278-2702 e-mail c11513@pref.gifu.lg.jp
2月27日(月)~ 3月13日(月)~	平成29年度 森林文化アカデミー 入学試験(第5回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森と木のエンジニア科(一般入試4) 3月18日(土)</li> <li>●森と木のクリエイター科(一般入試5) 3月19日(日)</li> <li>●エンジニア科(一般入試4)、クリエイター科(一般入試5)については第3回の入試の結果、定員数を満たしている場合は、実施しません。学科ごとの入試の有無については、1月27日(金)以降にホームページ(<a href="http://www.forest.ac.jp/">http://www.forest.ac.jp/</a>)で公表します。</li> <li>●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(<a href="http://www.forest.ac.jp/">http://www.forest.ac.jp/</a>)からダウンロードできます。</li> </ul>	森林文化アカデミー (美濃市曾代88)  森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525



市況	18
林業者向けお知らせ	17
知事へ要望活動	17
岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムが	17
桜を植えて友好深める	16
湯ノ平地内山腹崩壊における復旧工事について	16
治山・林道研究課題	15
地域と連携した効率的な獣害対策の実行について	15
国有林の現場から(5)	14
「変色を抑制するシイタケ品質保持の実用技術を目指して	14
研究コーナー	12
普及コーナー	11
中濃地域における普及指導について	11
わがまちの森林・環境行政	10
高山市の森林づくり	10
大発生した、オオシロカゲロウ	10
山のおしゃまむし(30)	9
岐阜県木造住宅相談員三十人認定	9
平成二十八年度 岐阜県木造住宅アドバイザー六人認定	8
木の香るぎふの施設(50)	8
関市立西部保育園	7
「目・耳・鼻・口・手」を使って自然の不思議を見つけよう	7
地域の人	6
シリーズ:『森林・環境税』で「緑豊かな清流の国ぎふづくり」(10)	6
「森林獣害対策」森林文化アカデミーの担い手育成	5
「森林と人を活かす知恵(50)	5
山の歳時記(13)	4
フクジュソウ	4
企業との協働による森林づくり	3
清流の国ぎふ森林・環境税は平成34年3月まで期間が延長されます	3
イベントカレンダー(一般向け)	2

岐阜県の森林・林業 News of the forest

# 森もりの林のたより

No.761 2  
2017 February







表紙 ● 岐阜県立森林文化アカデミーでは、森林や木材に関わるさまざまな分野で活躍する人材を育成しています。

# 清流の国ぎふ森林・環境税は平成34年3月まで期間が延長されます

岐阜県の恵まれた森林・川などの自然環境の保全・再生に向けた取組みを確実に進めるため、その財源として平成24年度に「清流の国ぎふ森林・環境税」を導入しました。自然環境の保全・再生の取組みをさらに進めるため、平成29年度以降についても制度を継続することとしました。



## ■税の仕組み

	個人	法人
納税義務者	(その年の1月1日現在で) 県内に住所がある方、 県内に家屋敷等をもっている方 ※前年の所得金額が一定の基準を下回るなど、 一定の条件を満たす方は非課税です	県内に事務所、事業所などがある法人等
税 額 (率)	年額1,000円	資本金等の額により 年額2,000円～80,000円 (県民税均等割額の10%相当額)
課税の方法	県民税(均等割)に上記の額を上乗せします	
徴収の方法	個人市町村民税と併せて市町村が徴収し、 市町村から県へ払い込まれます	法人県民税の申告納付の際に併せて県が 徴収します
課税の期間	平成24年度から平成33年度までの10年間	平成24年4月1日から平成34年3月31日 までの間に開始する事業年度分

※税を活用した事業については3月号で紹介します。

【恵みの森づくり推進課 吉田 宗平】 ●お問合せは恵みの森づくり推進課まで TEL 058-272-1111 内線(3029)

## 企業との協働による森林づくり

### 「東邦ガスの森 みたけ」森林づくり活動を開始しました

県では、県民協働による森林づくりの一環として、「企業との協働による森林づくり」を進めています。このたび、その21例目として、昨年10月31日に東邦ガス株式会社(本社:名古屋市)、御嵩町及び県との間で「東邦ガスの森 みたけ」における「恵みの森林づくり協定」が締結されました。

東邦ガス(株)は、県と御嵩町が推進する恵みの森林づくりの趣旨に賛同し、環境調和型社会の実現に向け、森林づくりに取り組まれます。

12月11日、約60人が出席し、第1回森林づくり活動が行われました。東邦ガス(株)環境部長 中野智司 氏から今後の活動に対する想いと展望が述べられ、来賓あいさつの後、参加者全員で除伐等の作業に取り組みました。活動地は旧中山道沿いに位置するため、景観にも配慮しながらの森林整備です。また、活動を通して、参加者は森林の役割や大切さを学びました。

東邦ガス(株)のみなさん、今後も地域と一体となり、里山林の再生を目指した森林づくり活動等よろしくお願いします。

## 東邦ガスの森 みたけ

### ○森林の所在地

可児郡御嵩町津橋地内

### ○森林の面積

7.84ヘクタール

### ○協定期間

平成28年10月31日～平成33年10月30日

### ○活動内容

- (1) 森林づくり  
下刈り、除・間伐など
- (2) 環境学習  
自然観察会など



協定締結式



第1回活動

【恵みの森づくり推進課 間野 知宏】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3034) 恵みの森づくり推進課まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

寒い時期に見ても何か暖かみを感じる花、フクジュソウ。キンポウゲ科フクジュソウ属の多年草であるフクジュソウ(Adonis ramosa)は、日当たりの良い県南部地域であれば2月下旬から咲き始めます。日本のフクジュソウは固有種で、北海道や本州、四国の温帯性落葉広葉樹の林縁や林床で、石灰岩地帯を好んで生息します。関西には少なく、僅かな自生地も近年減少

傾向にあり、国のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に分類されていたこともありす。

自然の状態で落ち葉の間から短い茎を出し、その上に直径4cmほどの黄金色の花を咲かせます。咲き始めの草丈は数cmなのですが、次第に茎や葉を伸ばして数個の花をつけるようになります。

葉はニンジンの葉に似て細かく切れ込み、上面も下面もほとんど毛が無く、日増しに伸びて30cm程度になつてからも花を咲かせます。

5月にはコンペイトウのような形の実をつけて、落葉樹林全体が一面の若草色に覆われる6月には葉は枯れて、約3ヶ月間にわたる地表での生育を終えて休眠に入ります。フクジュソウは初春に花を咲かせ、夏が始まる前に葉による光合成を終わらせて、翌春まで半年以上を地下で過ごす典型的な春

植物(スプリング・エフェメラル)なのです。

フクジュソウと云えば、以前日本では一種だけしか自生しないとされてきましたが、最近はフクジュソウのほか、キタミフクジュソウ、ミチノクフクジュソウ、そしてシコクフクジュソウの4種に分けられています。

フクジュソウは旧暦の正月(現在の2月ごろ)に咲き出すことから、江戸時代には新年を祝う「福寿草」とされ、ナンテンと併せて「難を

転じて福となす」という縁起物として正月の床飾りに使いました。地域によってはガンジツソウ(元日草)とかツイタチソウ(朔日草)とも呼ばれますが、「日本植物方言集(草本類篇)」などには、北海



▲群生するフクジュソウ

道ではマンゲサ、青森ではマゴゲサ、岩手ではマグサグ、秋田ではフクジンソウ、福島ではガンジツソウ、徳島ではキンバイソウなどと呼ばれていたことが記されています。

アイヌの人々はフクジュソウやキタミフクジュソウをチライアパッポ(イトウの花)、チライキナ(イトウの草)と呼び、この花が咲き始めると川にイトウ(鮠(魚偏に鬼))が遡上してくるため、漁獲の支度に取りかかる目安としていた花なのです。

●求められる対策の強化

現在、我が国の鳥獣による森林被害の約8割(面積比)がニホンジカによるものです。その被害は、単木被害にとどまらず森林の生態系を脅かすほどになっており、生息域の拡大や個体数の増加が予想されるなか、更なる対策の強化が求められています。

●アカデミーの人材育成

こうした状況の中、アカデミーでも森林被害対策に必要なスキルを学ぶための授業を設定し、担い手の育成に取り組んでいます。



**ツリーシェルターが施された新植地の見学風景**  
シカ対策では、ツリーシェルター(単木防護資材)のほか、防護ネットや忌避剤等も使用されます。森林では、対象面積の広さや地形条件、アクセスの悪さに加え、積雪等の影響もあり、対策が難しいことを学びます。

「森林獣害対策」  
森林文化アカデミーの担い手育成

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ●伊佐治 彰祥



**「森林獣害」授業風景**  
頭骨標本や足のはく製等を用い、加害獣の生態や被害の特徴を学びます。前列手前からニホンジカ、クマ、カモシカ、後列イノシシ

●「森林獣害」30時間

この授業は、森林獣害に関する基礎知識の習得を目的としたもので、被害の現状、加害獣の生態、防除対策、関係法令等について学びます。

●「野生動物捕獲実習」30時間

この授業は、わな猟等の狩猟技術や防除技術の習得を目的としており、実習によりわたなの設置や獲物の取り扱い、防護ネットやツリーシェルター設置方法等を学びます。また、狩猟免許の取得もこの授業の中で支援しています。

現在、これらの科目は、クリエイター科を対象としています。次年度は、エンジニア科にも科目を新設する方向で検討を進めています。

学生達は、これらの授業の他、岐阜大学で開講される野生動物管理学講座や県、猟友会等が主催する講習会等にも参加し、学びを深めます。

●ロッテンブルグ大学での教育

昨年十一月に、ロッテンブルグ林業大学から教授陣が来校され、狩猟や森林獣害、教育プログラム等について情報交換する機会が得られました。日本とドイツでは、銃や狩猟に関する文化や制度が大きく異なる一方で、森林獣害や狩猟者の高齢化など双方の課題は驚くほど共通していることがわかりました。また、教育プログラムは、狩猟がフォレストに必要不可欠とされていることもあり、より充実した内容で授業が行われているようです。これらについては、引き続き情報交換をしていくことになっており、この授業の充実を図っていきたいと考えています。

●終わりに

今後、森林獣害対策や狩猟に関する知識・技術は、森林技術者にとって外せないスキルになると考えます。アカデミーの学生達が、必要な知識、技術を身に付け、頼れる森林獣害対策の担い手として巣立ってくれることを願います。



**狩猟儀式風景**  
捕獲された動物を悼み、狩猟ホルンが吹かれる。曲は獣の種類ごとに決められているとのこと。捕獲された動物は、右側を下にして横たえられ、オスの口には、枝を咥えさせる。こうした狩猟文化が授業をおとして伝えられる。



**狩猟学実習風景**  
ドイツでは、銃所持が日本より容易で、初心者でもライフルを所持することができる。一方で、狩猟免許の取得は日本より難しい。また、くくり猟は、動物福祉の観点から、禁止されているとのこと。

## 『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

10

県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして「清流の国ぎふ森林・環境税」が導入されて4年が経過し、計画最終年である5年目の事業が実施されています。今年度も、森林に関係する事業を中心に連載で紹介します。

## 木質バイオマス利用施設導入促進事業

木質バイオマスエネルギーによる環境にやさしい低炭素社会の構築を目指し、間伐材等林地残材の木質バイオマス資源としての利用を促進するため、公共施設等への木質チップ・ペレットを燃料とするボイラーやストーブ等の導入を支援しています。

## ■平成28年度事業の概要

## (1) 補助事業者

市町村、学校法人、社会福祉法人、医療法人、NPO法人、民間事業者（多くの県民の利用が十分見込まれる商業・観光・レジャー事業等を営む者に限る。）

## (2) 補助金の額

補助対象経費の1/2以内 上限設定あり

(木質ストーブ 上限500千円/台、木質資源利用ボイラー等 上限25,000千円/台)

## ■平成27年度導入実績

市町村	導入先	導入された施設
各務原市	恵みの湯	薪ストーブ1台
山県市	グリーンプラザみやまコテージ内	ペレットストーブ1台
郡上市	ひるがの高原スキー場スカイレストラン	ペレットストーブ1台
	明宝デイサービスセンター	薪ボイラー1台
美濃加茂市	みのかも健康の森	薪ストーブ1台
恵那市	アンペール事業部ショールーム	薪ストーブ1台
下呂市	樽や	ペレットストーブ1台
高山市	柏木工(株)ショールーム	薪ストーブ1台
	ゲストハウス	ペレットストーブ1台
	飛騨五木(株)ショールーム	薪ストーブ1台
	ユンヌ・フルール	薪ストーブ1台
	高山市立国府小学校	ペレットストーブ13台
	高山市立松倉中学校	ペレットストーブ24台
	くるみ温泉&キャンプ場内	薪ストーブ1台
	ペンション平川	薪ストーブ1台
	癒しの家 そらふね	薪ストーブ1台
	木の駅プロジェクト駅舎	薪ストーブ1台



恵みの湯 (各務原市)



明宝デイサービスセンター (郡上市)

17施設において薪ストーブ10台、ペレットストーブ41台、薪ボイラー1台の導入を支援しました。

## 利用者の声

施設利用者からは「地産地消ができて経済的」、「炎がみえて石油ストーブより暖かい気がする」  
学校からは「化石燃料から木質バイオマス燃料へ切り替えをすることの重要性を児童に伝えたい」といった声が寄せられています。



小池さん

# 「目・耳・鼻・口・手」を使って 自然の不思議を見つけよう

下呂市森林管理委員会委員

## 小池 明聖さん

今回は、下呂市森林管理委員会委員の小池明聖（こいけ あき）さんを紹介します。

小池さんは、東京都出身で、平成5年に縁があり下呂市へ移住されました。

小池さんは漆と和紙で宇宙の心象を描く現代美術作家（作家はお休み中です）です。

\*\*\*\*\*

子どもを相手に絵画教室を行った時に、大きな和紙に「自由に何を描いてもいいよ」と絵を描かせます。しかし、なかなか喜んで自由に大きく絵を描くことはなく、小さくしか自分を表現できませんでした。自分だったら、喜んで紙面一杯に絵を描くのに、なぜだろう？と思いつき、過去の自分はどうだったか考えると、幼児期に自然の中で泥まみれになって遊んだ経験が思い浮かび、現在の子はそういった環境にないのではないかと思い至りました。幼児期に自然に触れることが脳の発達に大切と気づき、いろいろ学ぶようになりました。

### 「皇樹の杜ようちえんの開園」

現在は、飛騨地方でも子どものまわりから自然がますます失われていき、生活が便利に機械化する中で人間の五感も少しずつ鈍くなってきている…といわれています。この現状において幼児期における自然体験活動は、子どもの心の奥深いところに必ずや影響を与え、健全なる育成につながると思っています。そうしたことから下呂市萩原町四美の南ひだ健康増進センターにおいて「皇樹の杜ようちえん」を仲間とともにはじめました。毎月第3日曜日に、幼児と小学生を対象に開催しています。ちなみに、ようちえんとはいえず、親子で楽しむプログラムです。

\*\*\*\*\*

去る、平成28年10月16日にその様子を見学してきましたので少しだけお伝えします。

### 今回のテーマは「秋みつけ」

始めに参加者とともに南ひだ健康道場内を散策しながら秋をみつけ、袋に集めます。紅葉にはまだ少し早かったのですが、小池さんは途中で見つけた木の実や、山菜、草花の種を紹介されていました。

「森の色合わせカード」も使いながら、それぞれの秋を探しながら2時間くらい散策しました。参加した子ども達の目が森の中を歩くにつれてキラキラと輝きだしているような自然に興味津々となつたことが印象的でした。

散策を終えて、それぞれが集めた「秋」を自分の言葉で発表して秋みつけは締めくくられました。



みんなが見つけた「秋」



明聖ちゃん見つけたよ

皇樹の杜ようちえん終了後、小池さんから、「自然に触れて育つことは、高い能動性（自分で考え、判断し行動する）が要求され、子ども本来の内なる強い活力を發揮でき、出会うものはすべて本物、体とおして体験したことは、宝物になる。自然界の命のつながりを知ることができるので、幼児期から毎日、自然の中で遊ぶことは大切。」とお話いただきました。

また、近年は、「人間の体は食べたもので

きている。身近なもので元気になりたい。日本人にあった食事は何か。」と考えられ、葉草教室や地域にある山野草を使っての「身近な葉草と薬膳を楽しむ会」を開催するなど、地域の資源で心と体を元気にする取り組みを行ってまいります。

「日本は、医療費が年々上がって問題になっていますが、岐阜県、飛騨地域にはたくさん葉草が自生しています。そういった資源をみんなでおいしく、楽しくいただいで健康になって医療費も削減できたら素晴らしいじゃない。」と笑顔でお話いただきました。

地域の自然を生かして大変活躍しておられる小池さんですが、いつも心に留めていることは、「自分の心と体に向き合い努力すること。簡単に倒れられませんか」と笑っておられました。

「命ある限り、自然の恵みに心から感謝し、飛騨の地から自己肯定のできる素敵な子ども達を世に送り出したいとの想いでいっぱいです。」と小池さん。今後も葉草パワーで元気に活躍されることを期待しています。



散策の様子

【下呂農林事務所 林業普及指導員 瀧根 隆司】

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0576-1521311 内線(218)

下呂農林事務所まで

# 関市立西部保育園

関市小屋名621-2



施設全景

## 施設概要

事業年度	平成27年度
事業主体	関市
構造・延床面積	鉄骨造1階建 978.89㎡
施設用途	保育園
木材使用量 使用樹種	県産材使用量：47.26㎡ 主な使用樹種：ヒノキ、スギ、クリ、カラマツ
全体事業費	197,640千円（建築）
助成額	木の香る快適な教育施設等整備事業 6,890千円
設計者	関市建設部都市計画課
施工業者	青協建設 株式会社
工期	平成27年6月～平成28年2月

## 施設の経緯

西部保育園は、昭和54年4月に運営を開始した保育園です。平成27年に県の補助を活用して園舎を建て替えた際に、内装木質化を行いました。

各部屋の床や天井に岐阜県産材をふんだんに使うことで、木の香りとぬくもりのあふれる保育園へ生まれ変わりました。



園舎内部



遊戯室

## ここに注目!!

- 遊戯室の木製格子から太陽光を取り入れることで、木の香りとぬくもりのあふれる空間となっています。
- 平成28年10月8日に「ぎふの木づかい施設」に認定されました。

## 利用者の様子

- 園内が明るくなり、子ども達はのびのびと過ごしています。



木で囲まれた空間に子ども達はよるこんでいます。

■問い合わせ先  
関市福祉部子ども家庭課  
TEL 0575-23-7733

# 平成二十八年度 岐阜県木造住宅アドバイザー六人認定 岐阜県木造住宅相談員三十人認定



県では、県産材の良さを活かした木造住宅の提案や、木造住宅に関する相談・要望に応じられる人材を養成するため、建築士及び工務店の営業担当者を対象に講座を実施し、建築士向け講座の修了者を「岐阜県木造住宅アドバイザー」に、工務店の営業担当者向け講座の修了者を「岐阜県木造住宅相談員」に認定しています。



木造住宅相談員養成講座グループワークの様子

## 平成28年度木造住宅アドバイザー認定者

認定番号	氏名	所在地	勤務先
2801	桂川 麻里	土岐市	(有)アサイ設計
2802	金森 俊介	可児市	(株)大幸住宅 可児工房
2803	兼定 真由美	郡上市	カネサダ番匠
2804	川口 忠夫	可児市	(株)大幸住宅 可児工房
2805	佐竹 英昭	養老町	サタケ
2806	佐藤 美也子	坂祝町	スタジオ385

## 平成28年度木造住宅相談員認定者

認定番号	氏名	所在地	勤務先
2801	安藤 恵梨	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2802	井端 菜美	各務原市	(株)井上工務店 岐阜店
2803	岩尾 誠	郡上市	(有)岩尾建築
2804	植田 祐介	北名古屋	(株)新和建設
2805	宇津 容輔	北名古屋	(株)新和建設
2806	大西 睦	可児市	(株)弘栄工務店
2807	落合 愛実	岐阜市	(株)鷺見製材
2808	川崎 真吾	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2809	栗谷 詠子	高山市	(株)井上工務店
2810	小島 明人	北名古屋	(株)新和建設
2811	近藤 実穂	可児市	(株)弘栄工務店
2812	榊原 実咲	岐阜市	(株)鷺見製材
2813	坂元 悠馬	岐阜市	(株)鷺見製材
2814	上戸 啓司	北名古屋	(株)新和建設
2815	鈴木 将太	北名古屋	(株)新和建設
2816	田上 友裕	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2817	手嶋 翼	岐阜市	(株)鷺見製材
2818	長屋 恵美子	岐阜市	(株)ヤマジョウ建設
2819	中川 哲平	春日井市	(株)新和建設春日井展示場
2820	長崎 法浩	北名古屋	(株)新和建設
2821	成瀬 浩太郎	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2822	花田 宏一	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2823	原 佑真	北名古屋	(株)新和建設
2824	深谷 秀生	多治見市	(株)新和建設多治見展示場
2825	松原 寿樹	中津川市	(株)岡山工務店
2826	右嶋 亮	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2827	水野 初帆	可児市	(株)弘栄工務店
2828	山口 勝典	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2829	渡邊 貴則	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店
2830	渡邊 由美子	美濃加茂市	(株)新和建設美濃加茂支店

「木造住宅アドバイザー」として、平成十八年度から二十七年まで二二五人を認定し、「木造住宅相談員」として、平成二十四年度から平成二十七年まで九十三人を認定しています。

今年度は新たに木造住宅アドバイザーとして六人を、木造住宅相談員として三十人を認定しました。

## 【今年度の養成講座実施状況】

今年度は、木造住宅アドバイザー養成講座を四日間、木造住宅相談員養成講座を二日間にわたって実施しました。木造住宅アドバイザー養成講座では、座学のほか、原木市場、製材工場などで、原木から製材までの加工工程を学ぶ現地研修も行いました。

受講生には、講義や実習を通じて「木造住宅の良さ」をあらためて実感してもらおうとともに、「木を見る目」や「県産材の使い方」をはじめ、耐震や省エネ性能等に配慮した県産材を活かした家づくりについて学んでもらいました。

## 【木造住宅についての相談は

アドバイザーや相談員へ】

県のホームページでは、これまでに認定された木造住宅アドバイザーや木造住宅相談員を紹介しています。

木造住宅について関心のある方や、わからないことがある方はぜひご相談ください。

県では、今後とも木造住宅アドバイザーや木造住宅相談員との協働により、県産材住宅の建設を促進していきます。

【県産材流通課 玉置 雅野】

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 058-272-1111 内線3015

県産材流通課まで



# 山のおじまむし



## — 大発生した、オオシロカゲロウ — 【第307回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

新年早々、本誌編集部の方から原稿を提出してくださいとのメールがあった。見るなり「しまった!」。すっかり忘れていたのである。すぐに書かなければと思うものの、題材がない。焦った。いくら考えても思いつかない。書く前から大きなプレッシャーとなった。そのうちに、ふと昨年大発生したカゲロウが目に見えてきた。「これだ。これならすぐに書ける」ということで、気が楽になった。少し古いネタではあるが、このような事情なので御容赦のほどを。以下、その経緯。平成16年9月、県庁のAさんから、「木曽川の愛岐大橋に虫が大発生した。その数があまりにも多く、その死骸で車がスリップし危険である。現に昨日追突事故が起きている。何とかならないでしょうか」という相談があった。私はオオシロカゲロウ（以下、カゲロウ）だと思った。それは、このカゲロウは時々大発生して電灯などに飛んできて問題になるからである。このカゲロウの幼虫は水中で生活し、夏から秋にかけ成虫となって地上へ飛び立っていく。寿命はわずか1日。人目につくことはほとんどない。それが、なぜか突然大発生することがある。私自身、このカゲロウの大発生は何回か見ているが、すべて9月で、いずれも数日間で終わっている。しかし、2年続けて大発生することはなかった。このことをAさんにお話し「大発生は1週間も続かないので、そのまましておいたら」と答えた。

× × × ×

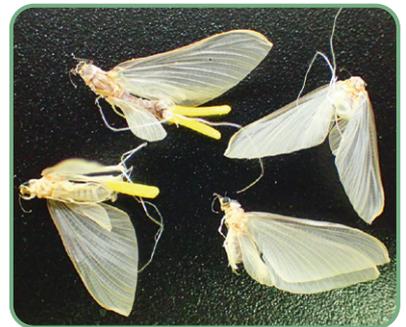
しかし、私はこの大発生を見ていないので、その日の夜、現場へ出かけた。その途中、車中のテレビではこのカゲロウの大発生を報道していた。その中でアナウンサーが著名な昆虫の大家に「この大発生はいつまで続くのですか」と質問していた。答えは「すぐ収まりますよ」。私と同じだった。現場へ着いたのは午後7時40分。テレビ局や一般の人たちがたくさん来ていた。遠くから見ると電灯は虫のため鈍い光だった。近づくと周りにはたくさんのカゲロウが弱々しく飛んでいた。しかし、飛来数は私が想像していたより少なかった。カメラを持った人が近づいてきた。「7時頃はものすごい数でしたよ。それが地面に落ちて少なくなりました」と言われた。地面にはたくさんの死骸があった。その死骸の上を早足で歩くと転倒しそうであった。車がスリップすることが理解できた。私はその方に「毎日来ているのですか」と尋ねた。その方は「大発生した日から通っています」と言われた。私はこの人にいろいろ尋ねたところ、次のようであった。初日の午後7時頃とはとにかく多く、前が見えなかった。それが徐々に少なくなり8時過ぎには激減し視界がよくなった。その代わり地面は死骸の山で、多いところでは数cmに達し、歩きづらかった。2日目は前日よりだいぶ少なくなり、今日はさらに少なくなり昨日の半分くらいだと言われた。「これで半分。まさに大発生だ」と思った。

× × × ×

観察を続けていくと、いくつかのことがわかった。特にたくさん集まる電灯は2つ。それを離れると激減する。これはこの電灯近くの橋の下で発生したカワゲラが集まって来たものと考えられた。また、愛知県側の電灯にはいなかったことから、対岸の水辺では発生していないと思われた。そしてカゲロウの集まっている電灯から100mほど離れたコンビニの電灯からは見つからなかった。このことから電灯に集まってからのカゲロウの移動範囲は狭いものと考えられた。翌日、採集したカゲロウを調べた。500匹ほどいたがすべて死亡していた。ところが白色のカゲロウに混じて黄色い小さな米粒のようなものがたくさんあった。何だろうと顕微鏡で覗いたら、卵の塊だったのである。一つの塊で100個以上はある。私の手元にあるだけでも、ものすごい数。となると現地の地面に積み重なっているカゲロウの卵の数はどれくらいか。想像を絶する数。これが私の答えであった。しかし、カワゲラの卵は水中でなければ孵化できない。となると、この卵はすべて死亡する。だから大発生は2年続かないのだと思った。それと、卵はつぶすとネチャネチャし滑りやすい。車がスリップするのはこのせいだと思った。

× × × ×

翌日も現地へ出かけた。しかし、カゲロウはわずかに飛んでいるだけ。道路にも死骸は見られなかった。予想はしていたもののこれだけ激減したのには驚きであった。その後4日間通った。2日目まではわずかに見られたが3日目からはまったく確認できなかった。



▲大発生したオオシロカゲロウの成虫

このことから大発生は終息したと確信した。橋の入り口には「カゲロウ発生中、通行注意」の看板が立っていた。「これもお役目ごめんか」と眺めているうちに、ふと思った。もし、愛岐大橋に電灯がなかったらどうなっただろう。大発生した成虫はどこかへ行くのだろうか。しかし、飛翔力が弱いので遠くへは移動できない。となるとこの川で産卵。すると来年は今年以上の大発生。そうなる……。その光景を思い描いていたら頭がおかしくなってきた。これが「昆虫世界の不思議というか謎」だと改めて思った。それにしても毎月掲載している原稿を書くのを忘れていたという大失態をした私。信じられなかった。しかし、まぎれもない事実。ひょっとしたら〇〇の始まりでないか。こんなことが脳裏をかすめ心配になってきた。



# 高山市の森林づくり

高山市の森林づくり施策を紹介します。



## 森林の概要

高山市は、森林面積が約201千haで、市域全体の92%を占めるとい、日本一広い森林面積を有する市です。そのうち国有林が81千ha(40%)、民有林が120千haとなっています。民有林のうち、スギやヒノキなどの人工林面積は、45千haで、人工林率は38%となっています。一方、天然林(広葉樹)の割合が高く、50%を占めています。



▲高山市のモデル的な森林

## 木を活用した文化

平成二十八年四月二十五日に、「飛騨匠(ひだのたくみ)の技・こころ木」ともに、今に引き継ぐ千三百年」が日本遺産に認定されました。千三百年前、都の造営のため飛騨の木工技術者を都へ送ることで税

に充てた「飛騨工(ひだのたくみ)制度」。古来より「木を生かす」技術や感性、実直な気質は受け継がれ、高山の文化の基礎となり、現在も様々なところで飛騨匠の技とこころに触れることができます。

この木を生かし、木の美しさを生かす技が、建築以外にも発揮されています。加工から塗装まで全てに高い技術が要求される「飛騨春慶」、イチイの木が持つ美しさを生かした彫刻「一位一刀彫」など。これらの伝統工芸・木工技術の粋を結集したのが高山祭屋台です。



▲飛騨春慶



▲一位一刀彫

## 森林づくりの柱

高山市は、きめ細やかに森づくりをすすめる「みんなで考え、生かす森林づくり」を基本理念に、次の三つを基本政策とし、多くの方々の声を反映して施策を進めています。

- 安全な暮らしを守る森林づくり
- 木を生かした地域産業づくり
- 森林を支える人づくり、地域づくり

## 森林整備事業

高山市は、豊かな森林資源を有効に活用できるよう、森林整備事業への支援や木造住宅建築に係る支援を行っています。

森林整備では、「緑の保全事業」により国県事業に対する嵩上げや小規模森林整備などに助成を行っています。

また、平成二十六年十二月に発生した豪雪による倒木被害の処理に対して、平成二十七年年度から三ヶ年の予定で支援しています。



▲豪雪による倒木被害



▲積まマイカー

## 木材利用促進

住宅での木材利用を促進するため、「匠の家づくり支援事業」として、主な構造用木材に市産材を活用した住宅に対して五十万円を上限に、1㎡当たり二万円の助成をしています。また、今年度から中津川市との広域連携事業として、東濃松と飛騨の杉を利用した木造住宅建築に対し支援しています。

## 未利用木材資源の活用

高山市内でも木質バイオマス利用の産声が上がってきました(機運が高まってきました)。地元産木材を活用したバイオマス発電施設や木質バイオマス利用施設などが着々と整備されるなかで、市では未利用木材資源の利用を促進するため、平

成二十六年年度に未利用資源活用促進事業(買取型)を拡充しました。市内の森林から生産された間伐材を対象に、市内のペレットやチップの加工施設に個人が集運する場合の買取経費の一部を助成するものです。

さらに、平成二十八年度には、未利用材取運事業「積まマイカー」を創設しました。これは木の駅に集められた間伐材を、定期的に運搬業者が、市内の集積所から加工所へ運搬するという仕組みです。

このように、高山市では、様々な支援策により、木材生産を促進し、豊かな森林資源を有効に活用することにより、さらなる森林整備の推進を目指しています。

## 最後に

高山市は、豊かな森林資源と高山祭をはじめとする伝統文化等や、木を生かす伝統工芸を継承し、これからも森林の持つ多面的機能を最大限に発揮する健全で豊かな森林づくりを進め、林業の振興を通じて地域の活性化を図っていきます。



▲高山祭(たかやままつり)屋台(やたい)

●詳しい内容を知りたい方は  
TEL0577-3513143  
高山市林務課まで



# 中濃地域における普及指導について



■中濃農林事務所 古川 勇人

中濃地域での木材生産、林業事業  
 体育成等に関する普及指導の取組み  
 を報告します。

## 中濃森林組合組織改革への支援

中濃森林組合は平成16年4月に広域  
 合併し、本所のほか、洞戸、板取、武儀  
 上之保に支所を設け、事業を展開して  
 きました。各支所では、数人の職員に  
 より担当地区の現場業務に係る仕事全  
 般が行われてきました。合併以来、内  
 部で何度か体制について検討されてま  
 したが、改編には至りませんでした。こ  
 の間、組合にも職員にも現状に対する  
 問題意識が生じていました。こうした  
 状況を踏まえ、農林事務所として森林  
 組合に働きかけを行った結果、役職員  
 も積極的に検討され、平成28年に改編  
 が行われました。

### ○「わが身を振り返る作戦」

(以下、作戦名は適当に命名)

農林事務所からの働きかけの内容と  
 して、最初に、今抱えている問題を、  
 職員自身に客観的に見つめ直してもら  
 うため、隣接する郡上森林組合の事例  
 調査を提案しました。職員の中で燃つ  
 ているモヤモヤは他の組合にも共通す  
 る課題だと考えたからです。

郡上森組では、長年組織の活性  
 化、効率化に向けた取組みが行われ  
 てきました。特に最近の取組みによ  
 り大きく改革が進んでいます。今回  
 の調査で、そのポイントは、

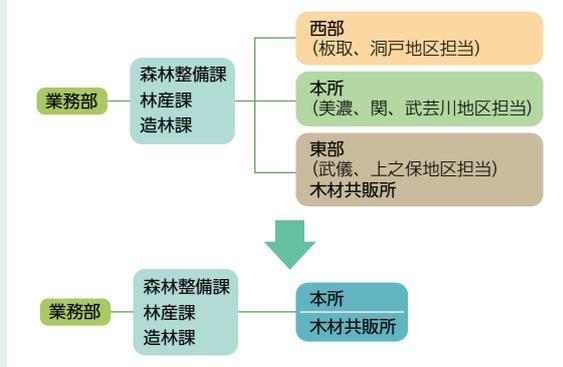
- ① 役職員の意識改革
- ② トップダウンによる指示

- ③ ボトルネックの解消
  - ④ 共通目標の明確化
- 等であること

が確認できました。この調査は、組合  
 にとつて、まさに求めていた解答を与  
 えてくれたようで、一年程度での組合  
 改革の実現を予感させるものでした。  
 しかし、郡上森組の改善内容が素晴ら  
 しく、役職員の心に想像以上に響いた  
 ようで、予想を裏切り、改革に向けた  
 取組みが即座にスタートしました。  
 改革の主なポイントは次のような内  
 容です

- ・ 本所への業務関係職員の集合配置
- ・ ボトルネックの解消
- ・ 林業機械の効率的な活用
- ・ 職員の更なる意識改革
- ・ 仕事の見える化

### 中濃森林組合の組織改編について



### ○「これでいいのか作戦」

組合の若手職員の意識改革への取組  
 として、若手職員の意識を調査するこ  
 とにも意識改革に向けた問題を提起す  
 るため、組合の課長補佐以下の若手職  
 員を対象に、意見交換の機会を平成28  
 年に設けました。

意見交換の中では、仕事に対する思  
 い、現状認識、問題意識、危機感、将  
 来への不安等について話し合いました。  
 この中で、職員からは次のような  
 様々な課題、問題が提起されました。  
 ・ 職場が分散していたことから職員の  
 連携が少ない。  
 ・ 森林所有者あつての森林組合であり  
 所有者とのウィン・ウィンの関係を  
 築きたい。  
 ・ この仕事が好き。  
 ・ 組織体制に問題。

この意見交換は、安心して動きやす  
 い職場に対する思いや、現場条件が厳  
 しく利益の出にくい現場が増えるこ  
 と、将来の森林組合事業の進め方等  
 ついて真剣な話し合いの場となりました。  
 こうした若手職員の思いが、組合組  
 織の改編の一助となったと思います。

### ○「偉い人の話を聞く作戦」

将来の幹部となり森林組合をリード  
 できる人材となつてほしいとの思いか  
 ら、森林組合を永きに渡り経営されて  
 きた森林組合長さんの経営理念、経営  
 目標、経営判断に至るお話を聞く機会  
 を設けました。

加子母森林組合を訪ね、組合長さん  
 から直接お話を聞きました。組合  
 長さんから最初に、人と職場は、

- ① 成長期…無茶苦茶頑張れる、頑張ればそれに比例して伸びる
- ② 成熟前期…頭がよく、先取りが出来れば伸びは続く、普通の頑張りでは横ばい
- ③ 成熟後期…普通の頑張りでは下りだす、頑張りややる気だけではだめ、周りとの協力しないと伸びない。



K森林組合での聞取りの状況

と三つの段階を経て成長していくというお話をお聞きしました。また、成功の条件として、「健康、家庭生活、社会生活、誰よりも一歩先を行く。目標を持ちその目標に向かって突き進む。出来ないと思わず出来るかもしれないと思うこと。」等のお話をお聞きしました。

加子母森組では、古くは植栽、保育、素材市場を経営していましたが、当時職員であった組合長さんは、将来の組合の経営を見越し、購買店舗、木工品の展示販売施設の設置、作業班の月給の導入、精油成分の利用、キャンプ場の経営、農商工連携による住宅部門への取組み等矢継ぎ早に取り組みされました。

まさにこれは、森林・林業の多角化による森林組合経営の安定化への取組みでした。こうしたことを振り返りながら、自分の努力もさることながら、やはりなんと云っても人（組合員、お客さん、職員）が自分を育て、組合を育ててくれたとの話が印象的でした。

こうした話を聞いた若手職員は組合長の生き様を垣間見て大きな影響を受けたようです。その後の組合長への質問にも影響が見て取れました。

### 林業事業体への支援

管内には森林を持たず林業経営を行う林業事業体があります。この事業体は、官公造林地の契約解除により森林所有者に戻った森林の経営を委託し、森林経営計画を策定し事業を行っています。

この地域は、古くは上流部の皆伐により水害を受けたことから、非皆伐による水源林を目標とする環境林への誘導を進めています。

今回、林業事業体の策定した経営計画区域の施業が終了し、平成28年度以降の事業継続が難しくなることから、官公造林地の払下げを受け、経営計画を早急に追加策定することが急務となりました。こうしたことから、関係者の理解と協力を得て、協議を重ねた結果、スムーズに官公造林地の払下げ、森林経営計画への追加が行われました。

これにより、平成28年度以降の事業地が確保され林業経営が継続することとなりました。



管理委託された森林の状況

### 県外への木材供給の支援

平成26年度、愛知県大口町から保育園の建て替えに対する支援要請がありました。大口町内にある会社が保有する森林が関市武儀町内にあることが縁での要請です。平成27年から平成28年にかけての建て替えに際し、この会社の社有林及び関市内の財産区から計700㎡の材が供給されました。保育園の開園では、全国育樹祭で使用された木曳車が式典を盛り上げました。

### 林業経営コンクール

林業経営コンクールは、森林の適正な管理、林業技術・経営の改善を進め、森林の持つ多面的な機能の発揮、林業の持続的かつ健全な発展に寄与された林業事業体を、県が表彰するものです。さらに表彰者のうち優秀な事業体は全国コンクールに推薦されます。



富之保財産区の森林の管理状況

当管内において、平成26年度には、健全で豊かな森林づくりプロジェクトへの事業協力や森林の適正な管理、企業との協働による森林づくり等を実践している関市富之保財産区が団体の部の最優秀賞を受賞され、さらに、全国コンクールに推薦され、大日本山林会が主催する平成28年度の全国林業推奨行事において、農林水産大臣賞を受賞されました。

平成27年度には、自ら森林を持たず、森林経営計画を策定し、非皆伐による水源林造成を行っている特定非営利活動法人柚の杜学舎が団体の部の最優秀賞を受賞されました。

### 施業プランナーの育成

効率的な森林整備事業を推進するためには、集約化、森林経営計画策定・実行・管理のほか、路網計画、作業システムの選択・実施などターゲットにマネージメントできる施業プランナーの育成確保が必要です。当管内では、ここ数年、施業プランナー育成研修を受講した施業プランナーが誕生してきています。研修課程の中で培った木材の検知の技術を活かし、製材工場への直送による、森林所有者への株代の増額への取組みなど、新たなチャレンジも生まれています。こうしたチャレンジで森林組合と森林所有者との間でウィン・ウィンの関係が更に築かれていくことを期待しています。

### 終わりに

以上、主だったものを紹介しましたが他にも、企業の森林づくりへの支援や森林環境教育の支援、市町村森林管理委員会の支援等様々な普及指導を行っています。普及を進めるうえでいつも感じているのは、人との繋がり、絆です。今後も皆様の力を頂きながら進めてゆきたいと思えます。

● 詳しい内容を知りたい方は  
TEL 0575-3314011  
中濃農林事務所まで

## 「変色を抑制するシイタケ 品質保持の実用技術を目指して」

森林研究所 ● 上辻 久敏

### シイタケの品質低下問題

岐阜県のシイタケの生産額は年間約20億円（平成27年）あり、地域経済に貢献する重要な品目です。このシイタケに関して品質保持は重要な課題です。生シイタケの品質が低下し始めると、傘の裏側のヒダや柄の部分で茶色く変色します。この変色は、消費者や市場関係者の視覚的な評価に大きく影響し、市場関係者からは価格にも影響すると考えています。出荷後にシイタケが変色する現象は、全国のシイタケ産地で発生しています。

### 変色対策のカギとなる 酸化酵素の働きと酸素の関係

当研究所では、シイタケの品質保持として、全国で発生している変色の対策技術を開発し、シイタケの商品力を高めることを目指しています。これまでの試験から、シイタケの変色のしやすさが品種ごとに異なり、シイタケ自身が持つ酸化酵素の

働きの強さが、変色しやすさに影響している可能性が高いことが分かってきました。この知見をもとに酸化酵素の働きに影響する因子と変色の関係を調べています。

シイタケの変色を根本的になくすには、変色に関係する酸化酵素のない品種が考えられますが、現状では開発されていません。一方、酸化酵素が、働くためには、酸素が必要ですが、シイタケの変色に関係する酵素への酸素の供給を妨げれば、酵素が働きにくい環境になり、シイタケが変色しにくくなると考えられます。

### 変色抑制対策の開発

この考えをもとに、主要な販売形態であるトレイにシイタケを並べラップ包装したパック商品をさらに密封して酸素の供給を低下させる試験で、変色が抑制できる結果を得ることができました（「シイタケの変色を理解して、鮮度保持に役立てる」(森林のたより No.749、16ページで紹介)）。

### 新たな変色抑制対策の 開発と結果

ラップ包装されたパック商品は、段ボール箱に梱包され出荷されています。今回紹介する試験では、個々の商品の包装はそのまま、パック商品が梱包された段ボール箱ごと1つの袋で密封する試験を行いました。16日間の保存後に、袋での密封の有無によるシイタケの変色状況を比較してみました。



①通常の段ボールを袋で密封

②通常の段ボールのみ

保存開始

保存16日

その結果、袋で密封していない段ボール箱のパック商品は、すべて変色していましたが、密封した段ボール箱では、すべてのシイタケパックが白い状態を維持していました（図）。通常のパック商品と段ボール箱を使用し、段ボール箱を密封するだけで梱包された商品30パックの変色を比較的簡単に抑制することができました。

### さらなる改良に向けて

一般にパック内の湿度の高さも品質低下の要因の一つとなり、水滴が付かない方がよいと考えられています。今回の調査では、16日目のパック内に水滴の付着は確認されませんでした。したが、密封しない条件よりは、水滴が付着しやすくなっていると考えられます。また、キノコから発生する揮発成分の濃度も高まることが予想されます。現在、変色だけでなくその他の品質と変色抑制の関係を調べ、県内シイタケの商品性のさらなる向上に役立つ技術の開発に取り組んでいます。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1331-2585

森林研究所まで

# 地域と連携した効率的な 獣害対策の実行について

岐阜森林管理署 総括地域林政調整官 松嶋克彰

岐阜森林管理署では、平成25年度以降七宗町や金華山等において獣害対策を進めてきました。今年度、新たに下呂市内で地域と連携した効率的な獣害対策の実行を目指した取組を始めましたので、その内容を紹介します。

## 七宗町と揖斐川町におけるニホンジカ対策

平成25年度以降ニホンジカの生息域が急速に拡大した七宗町と揖斐川町において、地元と協力して獣害対策を行っています。

七宗町では七宗町鳥獣害防止対策協議会と連携し、地元猟友会への捕獲委託やワナの貸し出し及び生息調査として岐阜大学や七宗町と合同でライトセンサスを実施しています。

揖斐川町では臨時職員による個体数調整や積雪地における防鹿柵の実証試験等を行っています。

## 金華山におけるイノシシ対策

平成27年度に設置された岐阜市金華山一帯のイノシシ被害対策協議会と連携し、センサーカメラによる生息調査や猟友会への捕獲委託を実施し、今年度は金華山山頂周辺で12頭（平成28年12月現在）のイノシシ

を捕獲しています。

## 下呂市におけるニホンジカ対策

### 1 下呂市の現状と課題

下呂市の森林面積は78千haで、その内の30%の23千haを国有林等が占めています。

下呂市が平成26年度に行ったライトセンサスでは、市内全域で1,210頭のニホンジカが確認され、そのうち金山地区が540頭、馬瀬地区が278頭、下呂地区が174頭となっています。調査を開始した平成22年度の確認頭数388頭と比較すると、約3倍に増加しています。

農業被害額は平成26年度の1千万円をピークに平成27年度は558万円に減少しています。これは防護柵等の設置が進んだことにより被害が減少したのと思われる。

森林では目立った被害は発生していませんが、国有林内で新植したスギやヒノキの苗木が食害される被害が発生したり、今まで見たことがなかった場所でのニホンジカの目撃情報も多く寄せられるようになっています。

### 2 下呂市内における取組内容

ニホンジカ対策は被害が出てからでは遅く、早めの対応が重要です。そこで、これ

まで対策を行っていなかった下呂市内の国有林で地域と連携した新たな取組を始めました。

### (1) 地域との連携

下呂市の鳥獣被害対策担当者との調整のもと、国有林における獣害対策や目撃情報等を地域の対策に活用するため、下呂市鳥獣害防止総合対策協議会に参加しました。

また、ニホンジカの生息数拡大を抑制するため、くくりワナの貸し出しを推進し、獣害被害の大きい下呂市や周辺の七宗町、郡上市等へ150基のワナの貸し出しを行いました。

### (2) 職員の意識改革と体制整備

森林管理署職員の危機感の醸成を行うため、全職員を対象にニホンジカの被害・目撃情報の収集の仕組みをつくることにも、職員によるライトセンサスを馬瀬地区の国有林で開始しました。この取組は生息状況を確認するとともに、今後の効率的な個体数調整に役立てるためのデータの集積を目的としています。

また、獣害対策について職員の知識と関心を高めるため、通達に基づく鳥獣保護及び狩猟に関する講習会を開催しました。職員がこの講習を受講することにより、国有林内で狩猟免許がなくても有害鳥獣捕獲が可能となります。

この講習は岐阜県では初めての取組で、県内の森林管理署職員60名が参加しました。午前は県の自然環境保全課の職員から法令関係の講義を受け、午後は下呂市猟友会の講師によるくくりワナ設置に関する講義と実技指導を受けました。

### (3) 職員による捕獲の実施

講習会を受講したことにより、下呂市と七宗町の国有林でくくりワナによる職員捕獲を実施しました。11月から開始した七宗町では成果は出ていませんが、下呂市の国有林では7月から12月末までに11頭を捕獲

しました。



▲くくりワナの実技講習の様子



▲職員によるくくりワナの設置

## 御嶽山にセンサーカメラを設置

当署では、平成27年度から御嶽山高山帯から垂高山帯にかけてセンサーカメラ5台を設置してニホンジカの生息調査を行っています。平成27年度にはニホンジカは確認されませんでした。平成28年10月に標高1,880mの仙人橋付近で初めて確認しました。

このまま何もしなければ、ニホンジカは御嶽山頂付近まで侵入し、高山植物の壊滅的な被害が予想されます。個体数密度の低い現時点での対策はなかなか成果が上がりませんが、国有林としては被害が目立たない今の段階から地域と連携して、より効率的な対策に取り組んでいきたいと考えています。



▲仙人橋付近（標高1,880m）で確認したニホンジカ（H28.10.3）

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 050-3160-6990

岐阜森林管理署まで

## 治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。昨年2月に行われた発表会（本誌752号16～17ページ）で発表された研究課題を紹介します。

# 湯ノ平地内山腹崩壊における復旧工事について

飛騨農林事務所森林保全課 加藤 雅之

## はじめに

国立公園内で発生した火山性堆積物を主体とした山腹斜面崩壊地での復旧対策について報告します。

平成26年6月、高山市奥飛騨温泉郷平湯地内の温泉施設「神の湯」の対岸山腹斜面が幅約60m、長さ約170mにわたって崩壊しました。

下流域には多くの観光客が訪れる平湯温泉街があり、山腹対岸にある温泉施設「神の湯」では安全が確保できていないことから、崩壊以来、営業を休止しています。未だ山腹には多くの不安定土砂が堆積し、さらなる災害の発生が危惧され、温泉街の住民はもとより、訪れる観光客からも早期復旧が望まれる箇所です。

## 復旧計画について

不安定土砂の流出防止と斜面の安定化を目的とした施設計画としました。

植生回復については、中部山岳国立公園内であることにも配慮し、周囲の広葉樹から飛来する種子を活かせる伏工により緑化を図る計画としました。

## 【崩壊地上部】

崩壊した斜面及び潜在すべりの安定化対策として、頭部のり切工により、地すべりの活動を抑制させる工法としました。地質調査の結果から、すべりに対する安定計算により土塊が安定する排土ライン（標高1533m）を決定し、すべり面に沿ったのり切を安定勾配で行うとともに、自然侵入促進型植生マットによる緑化計画としました。

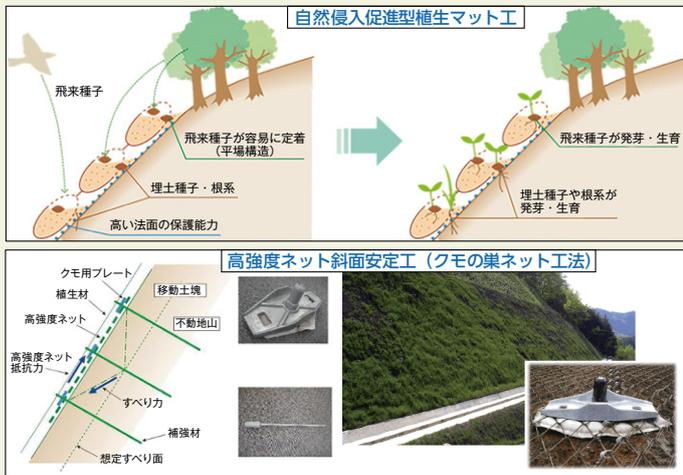
## 【崩壊地中央部】

新たな表層崩壊を抑制する斜面对策としました。工法の決定にあたっては、斜面長が長く安定勾配に切り直すことは困難であり、地質調査の結果から、想定される表層崩壊深が2～3m程度であることを踏まえ、施工性、経済性、景観等を考慮し、地山補強土工（高強

度ネット斜面安定工）の計画としました。

## 【崩壊地下部】

堆積土砂の固定と斜面勾配の修正を目的とした対策とし、直下の保全対象に近接していること、背面に堆積土砂があり、土圧に耐えられる構造が要求されることから、コンクリート土留工を計画しました。また、降雨等による上部からの表流水を分散流下させるために水路工及び筋工も計画しました。



## 進捗状況について

復旧工事は、平成26年6月の崩壊以

## 今後について

毎年、平湯地区の地元住民に対して説明会を行いながら工事を進めています。説明会を行いながら「神の湯」の営業再開を望む意見があります。

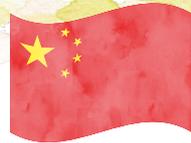
今後も引き続き、早期完成に向け工事を進めて行きたいと思っております。



詳しい内容を知りたい方は  
TEL 0577-331111 内線(4880)

飛騨農林事務所まで

# 桜を植えて友好深める



去る11月3日から8日まで、第2回岐阜県江西省友好植樹訪問団の一員として、岐阜日中協会の皆さんと共に中国江西省南昌市を訪問しました。

県と江西省とは、1988年の友好提携締結以来、様々な分野で交流をしています。

今回は、江西省友好20周年・25周年でも記念植樹を行った「南昌漁舟湾湿地公園」において、省林業庁 羅勤副庁長をはじめ省外事務務弁公室 李雨強副主任、南昌大学日本語科の学生達が参加し、江西省の木クヌギ、同省の花ツツジ、そしてサクラを植樹しました。

省林業庁表敬訪問では、閻鋼軍庁長をはじめ幹部の皆さんに「熱烈歓迎」の横断幕とともに温かく迎えていただき、同省の林業改革に向けた取組みや将来展望について説明を受けました。

2018年は、友好30周年という大きな節目を迎えます。林業分野における双方の更なる発展、両省県の交流と連携のため友好事業を引き続き展開していきます。

なお、今回の植樹活動は、(公社)国土緑化推進機構の「緑の募金」を活用し実施しております。



記念植樹

【恵みの森づくり推進課 河合 高志】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3031) 恵みの森づくり推進課まで

## 岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムが知事へ要望活動

—林業・木材関連産業を岐阜県の成長産業とするために—

12月20日(火)、岐阜県庁において、岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム(涌井史郎理事長)が、岐阜県知事に対して要望活動を実施しました。

岐阜県議会森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟会長の早川県議会議員の挨拶の後、涌井理事長から知事へ要望書が手渡され、各分野を代表してコンソーシアムの会員である林業関連団体の会長から、下記の項目について内容説明が行われました。



### ■提案・要望項目

#### 1 森林整備及び木材生産の推進

- 間伐・主伐・再造林の推進
- 野生鳥獣による森林被害防止の総合的な対策の充実
- 木材生産の効率化
- インフラ整備の推進

#### 2 木材産業の活性化

- 製材工場の体制強化
- 多様な分野への木材利用の促進
- 新製品・新技術の開発促進

#### 3 人材の育成と活用

- 人づくりを担う「森の恵みのおもちゃ美術館(仮称)」の整備
- 地域森林監理士の活用
- 森林施業プランナーの活用
- 有意義な日独林業シンポジウムの開催

#### 4 「清流の国ぎふ森林・環境税」制度の推進

【岐阜県立森林文化アカデミー 森林技術開発・支援センター 安達 宗靖】

●詳しい内容を知りたい方は TEL 0575-35-2535 森林技術開発・支援センターまで

## 森林・林業関係イベントカレンダー(2月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
2月21日(火)~ 2月24日(金)	<b>フォークリフト 運転技能講習</b>  受講資格: 自動車普通運転免許 所持者	●講習時間:1日目: 8:30~16:30 学科 16:30~17:30 学科試験 2~4日目: 8:00~17:30 実技・試験 ●申込:開催日の20日前まで ●受講料:31,860円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	岐阜県森連岐阜支所(関市倉知字物見山4660-16)  林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-272-3858



県職員になって、初めて森林のたよりの編集委員となりました。残り少ない期間(?)ですが、よろしくお願いします。

編集委員になる前は斜め読みをしていた森林のたよりですが、作る側に携わるようになったためか、最近では隅々まで記事に目を通すようになりました。読んでみると、岐阜県の政策紹介だけではなくイベント・各地での取り組み・森林やそこに生息する生物についての話など、充実した内容になっているのだと改めて気づきました。また、内容が充実しているだけでなく(しているからこそ)、記事についての問い合わせをいただくなど、多くの方に読んでいただいていることを実感しています。

このような充実した内容、多くの読者を獲得しているのは、過去に携わった方々の積み重ねた努力の証であり、これからもよりよい内容となるように、携わっていただけたらと考えています。

「森林のたより」編集委員 岡本 卓也

### 連載

- 山の歳時記(139)
- 山のおじゃまむし(308)

### 森の名手・名人

- 清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵(51)

### 木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(51)

### 清流の国ぎふ森林・環境税

- わがまちの森林・環境行政(3)

### 森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

### 市況情報

その他

3月1日発行

3月号  
予定

## 木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1620回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
		4 m	16~18cm	10,300	—	
			20~22cm	11,000	—	
			24~28cm	11,000	—	
			30cm以上	12,500	23,000	
	6 m	16~18cm	14,000	—		
	ひのき	3 m	16~18cm	17,100	—	
			20cm以上	15,500	33,000	
		4 m	16~22cm	16,200	—	
			24~28cm	14,000	37,700	
30cm以上			18,200	95,000		
6 m		16~18cm	27,000	—		
第1200回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	11,500	—	
		4 m	22~28cm	11,000	—	
			30cm以上	12,000	39,000	
	ひのき	3 m	16~18cm	17,000	—	
		4 m	20~22cm	16,000	—	
			24~28cm	14,000	—	
	6 m	16~20cm	24,000	—		
		30cm以上	18,000	118,000		
	まつ	4 m	24~28cm	11,000	—	
			30cm以上	13,000	—	
		ひめこ	4 m	24~28cm	15,000	—
			5 m	30cm以上	20,000	—
30cm以上				23,000	—	
くり	4 m	24cm以上	20,000	—		
第1532回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,100	13,100	
		4 m	22~28cm	11,900	13,400	
			30cm以上元	13,500	18,000	
	ひのき	3 m	16~20cm	16,900	22,000	
			22~28cm	15,000	19,700	
		4 m	30cm以上元	20,500	54,000	
			13cm以下	9,000	—	
		6 m	22~28cm	14,900	20,200	
			30cm以上元	21,500	92,000	
	まつ	4 m	18~20cm	27,000	29,900	
22~28cm梁			7,500	—		
30cm以上元	10,000	—				

## 木材市場

### 製品の動きは悪く価格は弱含み

#### 【商況】

降雪により、品薄状態。スギ4m良材、並材は4m、3mとも16~28cmが強含み。ヒノキ並材は、柱、土台ともに需要あり、特に4mの16~22cmが旺盛。大型工場向け直送納材は順調。(岐阜)

スギ良材は強含み。スギ、ヒノキ並材は3m、4mとも16~28cmが強含み。ヒメコも中目以上が応札も多く人気。相変わらず広葉樹は人気で応札も多い。(飛騨)

ヒノキ元木良材(高齢材及び枝打材(特殊材)2m・3m・4m、6m)は横ばい。ヒノキ並材は3m、4mとも22~28cm弱含み。スギは全般的に品薄、4m元木良材は応札多くなるとか横ばい、二番玉は弱含み、3m、4mとも16~28cmは弱含み。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(杉については、県内新工場稼働につき今後原木の流れが良くなるが、荷不足感が強い。)(東濃)

### 製品卸売標準価格 (12月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m <sup>3</sup> 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	55,000	(1,819)	→
	間柱	3000	105	30	1等	55,000	(520)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
	柱	3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松) 特等	70,000	(3,024)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	(1,950)	→
		3000	120	120	国産5層	60,000	(2,580)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

### 外材市況 (12月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	281	米栂	へム(アラスカ産)	277
	コースト(目荒)	284	米ひば	ポール	281

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

### 木材用語一口メモ

#### 機械等級区分

目で見て等級を区分するのではなく、機械により測定した客観的な物性値で木材の等級を決めること。機械等級区分材は針葉樹の構造用製材JAS規格の一つで、曲げ試験機等を用いて行う非破壊測定により得られた曲げヤング係数に基づいて、強度の等級区分を行います。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建築用語辞典

